

投稿規程

1. 投稿論文は未発表のものであること。ただし、すでに口頭で発表したものはその限りではない。
2. 投稿論文の長さは、和文の場合はA4判用紙に35字×35行で10枚を、欧文の場合はA4判用紙に1枚85ストローク×50行で10枚をめやすとする（文献書誌を含む）。
3. 論文はフロッピーとともに3部提出すること（2部はコピーでも可）。
なお、提出の際には、シノプシス（タイプ用紙1枚程度）1部を別紙添付する。
4. 原稿の校正は著者の責任として三校までとする。校正は字句の訂正にとどめる。
5. 論文の採否は編集委員会の責任において決定する。
6. 書式上の注意
 - ①注は原稿の末尾にまとめてつける。
 - ②外国の人名、地名、書名は少なくとも初出の箇所で原名を示す。
7. 掲載論文の著者用抜刷は30部までを無料とする。

編 集 後 記

第5号を上梓いたします。昨号から本号が出版されるまでの間に、金山等先生、伏見俊則先生そしてDick Sampson先生がご退職されました。お三人の先生には、岩手県立大学開学以来、言語文化教育研究センターの運営に大変お世話になりました。

そして、岩手県立大学も昨春第一期生が社会へと巣立ち、五年目もはや終わろうとしております。新体制となった今年度は、新たにChristine Winskowski先生、高橋英也先生そして高野泰志先生をお迎えいたしました。お三人とも教育、研究に大変熱心な方々で今後の活躍が期待されます。

最近、世の中にはなかなか明るい話題もございません。我々を取り巻く環境もいろいろと厳しいものがございますが、教育と研究両方に最善を尽くしてまいりたいと存じます。どうぞご理解、ご支援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

(E I)